



Title	戸部実之著『モンゴル語入門』における記述上の問題点
Author(s)	角道, 正佳
Citation	大阪外国語大学論集. 1997, 16, p. 117-137
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/79718">https://hdl.handle.net/11094/79718</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 戸部実之著『モンゴル語入門』における記述上の問題点

角 道 正 佳

### Problems in the Description of *Introduction to Mongolian* by Miyuki Tobe

KAKUDO Masayoshi

*Introduction to Mongolian* is a booklet consisting of 140 pages in which romanized system is used in writing Mongolian. Roman scripts, however does not correspond to standard cyrillic orthography. In the main part of the book, u represents ү, and o represents either о, ө or у, and ɔ represents either ɔ or у, and i represents either и, й or ь, and ui represents either ы, и, ь or үй. ng appears only in page 28, although n is used elsewhere. The author's romanized system changes in the glossary, where u represents either y or ү, and o represents either о, у or ө, and ɔ represents ɔ. In the main part of the book, syllable structure roughly corresponds to standard orthography, while in the glossary, different system based on *A Modern Mongolian-English-Japanese Dictionary* is adopted. The book contains a lot of misprints, too.

#### 0. はじめに

戸部実之著『モンゴル語入門』<sup>(1)</sup>は140ページの小冊子であり、通常はキリ文字で記されるモンゴル語がローマ字で記されているという点で初心者にはとっつきやすいもののように思われる。著者自身も「はじめに」で「この本は、類書と異なり、言語の中でも、特に音韻に重点を置いています。」また「あとがき」にも「言語の核心に音があり、音韻の比較を主目的とするものです。」と述べている。しかし、それにもかかわらず、この書物には表記上の問題が非常に多い。この書物に基づいてモンゴル語を学習しようものなら、たちまち混乱してしまい習得はおぼつかないであろう。モンゴル語をローマ字で表記するのが悪いのではない。ローマ字に置き換える方法に一貫性があれば問題はない。この書物ではローマ字化の仕方に一貫性がない。本文と語彙集では表記体系が異なっている。本文の中でも表記が一貫していない。それも単なる誤植とか、不注意ミスといったような類のものではなく、いったい著者の頭の中はどうなっているのだろうかと思わざるをえないようなものである。

1. モンゴル語のローマ字化<sup>(2)</sup>

モンゴル語をローマ字化する方法には公認された一般的な方法があるわけではないが、とくに面倒なのは母音である。a, i, u, e, o の5文字ではどうしても足りない以上補助記号に頼らざるをえない。上記の5文字以外に最低2つの文字が必要になる。Poppe, 内蒙古の辞典三種類、泰流社の別の書物の表記を比較してみよう。

	Poppe	『蒙漢辞典』	『蒙古語 標準音詞典』	『蒙語正音 正字詞典』	『モンゴル語単語集』 『モンゴル語会話集』	キリル文字
1	a	ɑ	a	a	A	a
2	e	e	e	ə	E	э
3	i	i	i	i	I	и
4	o	ɵ	o	ɔ	O	o
5	u	ʊ	u	ʊ	U	y
6	ö	o	ɵ	ə	O	ө
7	ü	u	ʉ	u	U	ү

どの方式でも相対的な位置関係しか表すことはできないが、『蒙漢辞典』の4と6は非常に具合が悪い。これだと4が中舌母音で、6が後舌母音になってしまう。事実は逆である。しかしそれでもこの定義で一貫すれば一応区別すべきものは区別されているのでかまわないともいえる。泰流社出版の『モンゴル語単語集』『モンゴル語会話集』では4 = 6, 5 = 7となってしまうので区別すべき母音が区別されていないことになる。

2. 『モンゴル語入門』のローマ字化<sup>(3)</sup>

9ページでアルファベットの表記は次のようになっている。キリル文字も参考のために付け加える。

a	b	v	g	d	e	ë	j	z
ア	ベ	ヴェ	ゲ	デ	イエ	イヨ	ジ	ゼ
a	б	в	г	д	e	ё	ж	з
i	k	l	m	n	o	p	r	s
イ	カ	エル	エム	エヌ	オ	ペ	エル	エス
и	к	л	м	н	о	п	р	с

t	y→o	Y→u	f	h	ts	ch	sh
テ	オ	ウ	エフ	ハ	ツエ	チェ	シェ
т	y		ф	х	ц	ч	ш
shch	u	e	yu	ya			
シチェ	ウイ	エ	ユ	ヤ			
ш	ы	э	ю	я			

これを見て先ず e という文字になぜイエとエがあるのか分からなくなるであろう。キルル文字では前者は e, 後者は э という違った文字である。したがってイエは少なくとも ye としなければ具合が悪い。y→o とか Y→u という→が何のつもりであるのか説明がない。それぞれ→に右のようにも表すという意味なのか。それならば→の左がキルル文字のようにも見える。上の表にはキルル文字の й, е, ь, ъ に相当するローマ字が欠けている。й, ь, и は相補分布を成しているので区別しないで全て i で表しても全く支障はないし, ъ も頻繁に現れる文字ではないから大きな支障はないが, е を表す方法がないとたちまち支障をきたすことになる。

o と y→o は表記上区別しているのに, 片仮名はどちらもオとなっているのは具合が悪い。この違いも含めて以下のような注が記されている。

- i 日本語のイと同じ。明るいひびきがある。<sup>(4)</sup>
- ui 現代日本語にはない。口の奥の方から出る。暗い音。  
奈良時代まで存在したとされる乙音の i (ウイ)
- e 日本語のエと同じ。明るいひびきがある。
- ë 現代日本語にはない。エよりも、暗く、深い感じ。  
奈良時代まで存在したとされる乙音の i (ウエ)
- o 日本語のオと同じ。明るいひびきがある。
- o 現代日本語にはない。口の奥を開いて、オの音を深く、暗く、  
こもらせて発音する。奈良時代まで存在したとされる乙音の ö (ウオ)

i は問題はないが, ui の説明はいろいろ問題がある。これはキルル文字の ы<sup>(5)</sup> のことを言っているのであるが, これは属格・対格にしか現れない文字であり, 音素としては /i:/ と考えられるので ий と弁別される母音ではない。音価としては「口の奥の方」ではなく中舌である。奈良時代の乙音の音価<sup>(6)</sup> についてはいろいろな説があって著者の言うようなことは軽々しくは言えない。

e, ë については著者はいったい何が言いたいのか全くわからない。先ず e が上記の表のイエなのかエなのか不明である。「日本語のエと同じ」というからにはエのほうだと思われるが, この母音 (キリス文字の э) は中舌寄りであり, 日本語には存在しない。したがって ë の説明のほう

に近い。しかし表ではëはキリル文字のëに対応するものであり、発音は[jɔ:]であるから説明とは対応しない。「奈良時代まで存在したとされる乙音の i (sic ë のつもりか)(ウエ)」というのも二重の意味で正しくない。キリル文字のoに相当する母音をeの上に点を一つ付けて表記することもあるので、著者はそれと混同しているようである。しかしそうすると今度はeの説明が理解できないことになる。

o, ɔについても説明が錯綜している。表に従うとo[o], ɔ[o]であるから、どちらも日本語にはない母音であり、違うのは口の開き具合であって、口の前か奥かではない。これ自体がIPAの使用法とは逆になるので、混乱しそうであるがそれは、今は問わないことにする。しかしɔの説明をそれなりに解釈するとキリル文字のoのことを言っているようである。「奈良時代まで存在したとされる乙音の ö (ウオ)」というようなことは軽々しくは言えない。

ここまですべてをひとまずまとめると次のようになる。

アルファベットの表                      対応すると思われるキリル文字

e	e/э
ë	ë
o	o
y→ɔ	y
Y→u	y

説明の部分                                      対応すると思われるキリル文字

e	?
ë	э
o	o
ɔ	ө

これだけでも非常に混乱しているが、次のページ(10ページ)を見るとますます分からなくなる。10ページに次のような語がある。参考までにキリル文字を添える。意味は著者がその文脈において与えているものをそのまま転記する。したがって訳語に問題があるものが含まれている。必要に応じて( )で補う。

『モンゴル語入門』	キリル文字		ページ
tɔmɔr uzeg	төмөр үзэг	ペン先	10
shogam	шугам	定規	10
sorah bichig	сурах бичиг	教科書	10

これらの例から判断すると、ɔ はөを、oはyを表していて、9ページの説明とは違った表記に

なっている。

11ページでは

『モンゴル語入門』	キリル文字		ページ
toli bichig	толь бичиг	辞書	11
bodag	будаг	絵の具 (染料)	11
nomuin sav	номын сав	カバン	11

のように、oはoまたはyを表している。

12ページでは

Ene nom ɔɔ ?	Энэ ном уу ?	これは本ですか。	12
sɔrah bichig	сурах бичиг	教科書	12

のように、oはoを、ɔはyを表している。この結果10ページの「教科書」と、12ページの「教科書」とは違った表記になる。

sorah bichig	сурах бичиг	教科書	10
sɔrah bichig	сурах бичиг	教科書	12

これだけでもかなり混乱しているが、13ページを見ると

hoshig	хөшиг	カーテン	13
olguur	өлгүүр	掛け物 (ハンガー)	13

のようにoがəを表している。このページでは

tsonh	цонх	窓 (まど)	13
dor	дор	下	13
zɔrag	зураг	絵	13
ɔnsh	унш	読む (語幹)	13

となっているから、oはoを表し、ɔはyを表している。

以上をまとめると、

(1) ɔはəまたはyを表す。

tɔmɔr uzeg	төмөр үзэг	ペン先	11
Ene nom ɔɔ ?	Энэ ном уу ?	これは本ですか。	12
sɔrah bichig	сурах бичиг	教科書	12

(2) oはyまたはoまたはəを表す。

shogam	шугам	定規	10
sorah bichig	сурах бичиг	教科書	10
toli bichig	толь бичиг	辞書	11
nomuin sav	номын сав	カバン	11

hoshig	ХӨШИГ	カーテン	13
olguur	ӨЛГҮҮР	掛け物	13

ということになる。

9 ページの説明ではuiはыを表すものとされていて、実際多くはそうになっている。しかし、18 ページには

nui	НЬ		18
-----	----	--	----

という語があって、uiがьを表している。一方48ページでは、同じ語が

ni	НЬ		48
----	----	--	----

のように表記されている。70ページでは

horui	ХОРЬ	二十	70
horuin	ХОРИН	二十	70
tavui	ТАВЬ	五十	70
tavuin	ТАВИН	五十	70

のようにuiはьまたはиを表すのに用いられている。18ページにも

sorgooli	СУРГУУЛЬ	学校	18
angli	АНГЛИ	英語 (英国)	18

のような例がある。さらに

teguie	ТЭГЬЕ	そうしましょ	21
ochyo	ОЧЬЁ	行こう	24
uzie	ҮЗЬЕ	みましょ	34

のような例を見ると、対応は次のようになっている。

『モンゴル語入門』	キリル文字
ui	Ь (иと交替する), Ъ (分離符号)
e	е
φ (ゼロ)	ъ
yo	ё
i	Ь (иと交替する), Ъ (分離符号)

また、次の語ではuiはүйを表している。

yumgui	ЮМГҮЙ	ありません	52
--------	-------	-------	----

йはすべてiで表されているので、結局

(3) i はиまたはйまたはьを表す。

(4) uiはыまたはиまたはьまたはйを表す。

ということになる。

以上の(1)～(4)をまとめると次のようになる。

	表記	キ リ ル 文 字
1	o	o y
2	o	o o y
3	i	и й ь ь (分離符号)
4	ui	ы и ь ь (分離符号) вй

и, й, ь (ただし分離符号としての使用は除く) は相補分布を成している<sup>7)</sup> ので, 区別しなくても曖昧性は生じない。したがって3はそれほど曖昧ではない。しかし1, 2, 4は非常に曖昧である。この表記から一義的にキリル文字を想定することはできないし, 逆にキリル文字から一義的にこの表記に置き換えることもできない。

### 3. 語彙別に見た表記

ローマ字表記がキリル文字表記と1対1対応していないために, 同じ語彙の表記が一定しないことになる。例えば,

sorah	сурах	(習う)	10
sorah	сурах		12
tomor	төмөр	(鉄)	10
tomor	төмөр		25
nui	нь		18
ni	нь		48
hoyor	хоёр	二人	22
hoiyor	хоёр	二	68
hoer	хоёр	2	122
olang	улаан	赤い	28
olaan	улаан	赤, 赤色	72
olaan	улаан	赤い	114
nogong	ногоон	緑の	28



nogoon	НОГООН	緑色	72
nogoon	НОГООН	緑色の	98
yuu	юу	何	16
yuo	юу	何	16
Үо	юу	何？	31
jijig	жижиг	小さい	7
jijik	жижиг	小さい	38
goravdahi odor	гурав дахь өдөр	水（曜日）	41
goravdahui odor	гурав дахь өдөр	水曜日	66
ajilldag	ажилладаг	働いています	57
ajilladag	ажилладаг	働いています	57

なお、本文と語彙集の表記が違うものが多数存在する。

#### 4. ng

キリル文字のнは／n／，／ŋ／という二つの音素を表している。この区別は子音文字では区別されないが，母音が後続するかないかによって識別される。しかし『モンゴル語入門』にはngという子音が28ページにのみ出現する。

budung	БҮДҮҮН	大きい（太い）	28
huiteng	ХҮЙТЭН	寒い	28
noᠭoᠩ	НОГООН	緑の	28
olang	улаан	赤い	28
tsong	цөөн	小さい（少ない）	28
dolang	дулаан	暖かい	28
haranghoi	харанхуй	暗い	28

これらの語彙におけるngは全て／ŋ／を表しているが，それは語末，あるいは口蓋垂音の前に現れていることから自動的に判別できるものである。こういった子音をngで表すことにすると，байшинг「建物を」，санг「倉を」のような隠れたгが語末に出現する場合を表記することができなくなる。ngが28ページにのみ現れるというのも奇妙である。

## 5. 長母音を短母音で表記している語<sup>(8)</sup>

長母音の表記は大体は正しいようであるが、次のように短母音になっている語がある。

### 5. 1. 属格

mini	МИНИЙ	私の	17
chini	ЧИНИЙ	あなたの	17
tuunni(sic)	ТҮҮНИЙ	そのの	17
tedni	ТЭДНИЙ	彼らの	17
angin	АНГИЙН	クラスの	17
hicheelin	ХИЧЭЭЛИЙН	教室の	20
henih	ХЭНИЙХ	誰の	55

### 5. 2. 補助母音の後

oyotan	ОЮУТАН	生徒 (学生)	18
Yɔ	юу	何?	31
hoyolaa	ХОЁУЛАА	二人で	33
Yagaad	ЯАГААД	何故	55

### 5. 3. その他

budung	БҮДҮҮН	大きい (太い)	28
horai	ХУУРАЙ	乾いた	28
noḡoṅg	НОГООН	緑の	28
olang	УЛААН	赤い	28
tsong	ЦӨӨН	小さい (少ない)	28
dolang	ДУЛААН	暖かい	28
mo	МУУ	悪い	28
Hariltsa Yaria	ХАРИЛЦАА ЯРИА	会話	32
cf. yuu	юу	何	35
yuo	юу	何	52
ayuol	АЮУЛ	危険	79

## 6. 不必要な母音

正書法上不要とされる母音が書かれている語がある。キリル文字の表記の代わりに著者の表記を母音の音価を換えないで訂正したものを付記する。

b <u>o</u> odalaas	b <u>o</u> odlaas	駅から	28
amara <u>a</u> arai	amraarai	お休みなさい	53
ne <u>h</u> emel	nehmel	繊維	58
hoi <u>y</u> or	hoyor	二	68

## 7. 誤植

『モンゴル語入門』には誤植が非常に多い。著者に語彙力があればすぐに見つかる誤植が数多くある。

## 7. 1. 分かち書き等

tanar	ta nar	あなた方は	17
tanaruin	ta naruin	あなた方の	17
tanaruig	ta naruig	あなた方を	17
tanart	ta nart	あなた方に	17
taheden	ta heden	あなたはおいくつ	59
dorovdeh odor	dorov deh odor	木曜日	66
godam - jind	godamjind	通りに	22

## 7. 1. キリル文字をローマ字に置き換える際の勘違い

reh z <u>e</u> rgiin	g <u>e</u> h zergiin	などの	23
so <u>o</u> gliin	so <u>o</u> dliin	自（動車で）	26
ho <u>p</u> aana	ho <u>r</u> aana	収穫する	43

## 7. 2. 脱落

ushin	us <u>h</u> in	床屋	24
tramvaiaar	tramvaigaar	電車で	24
trolebusaar	trolei <u>b</u> usaar	トロリーバスで	24
tramvaar	tramvaigaar	電車で	26
dogaar	dogo <u>i</u> gaar	自転車で	26

zochid <u>bood</u>	zochid bood <u>dald</u>	ホテルに	27
en	<u>hen</u>	誰	54
ajilldag	ajill <u>adag</u>	働いている	57
7. 3. 添加			
tuun <u>ni</u>	tuun <i>ii</i>	その	17
uildver <u>giin</u>	uildver <i>iin</i>	工場の	27
7. 3. 表記の方針の違い			
jijik <u> </u>	jijig	小さい	38
wild <u>vert</u>	<u>uild</u> vert	工場で	58
7. 4. 曖昧母音の位置に関する解釈の違い			
mergejil <sup>⑨</sup>	mer <u>eg</u> jil	(専門)	57
bagshl <u>adag</u>	bagsh <u>ildag</u>	教師をしている	58
7. 5. n をh と誤ったもの			
baroo <u>h</u>	baroo <u>n</u>	西	48
Hool <u>hui</u> ner	Hool <u>nui</u> ner	メニュー	61
7. 6. その他			
hij <u>heen</u>	hich <u>neen</u>	何人	18
hodolmer <u>ch</u> dod	hodolmo <u>rch</u> dod	労働者たちに	29
dllgu <u>urees</u>	delgu <u>urees</u>	(本) 屋から	37
y <u>och</u>	g <u>och</u>	3 0	39
od <u>rees</u>	odro <u>os</u>	日々 (奪格)	49
bugd <u>iin</u>	bugch <u>im</u>	蒸し暑い	63
zols <u>loo</u>	zogs <u>loo</u>	止みました	64

誤植にはいくつかの特徴が見られる。reh zergiin「などの」、soogliin「自 (動車で)」, hopaana「収穫する」は明らかにキリル文字をローマ字化するときの不注意ミスである。キリル文字のrの筆記体はローマ字のrの筆記体に似ているし、キリル文字のпの筆記体はローマ字のgの筆記体に似ている。またキリル文字のpはローマ字のpと同じである。

Hoolhui ner「メニュー」はnをhと誤記したものであるが、おそらく手書き原稿を読み誤った

ものであろう。語彙集にもnをhと誤記したものが3例ある。yoch「30」も原稿の判読ミスのようなのである。

## 8. 語彙集の表記

本文の表記と語彙集の表記とが違っている。本文ではuはyしか表さないが、語彙集ではuはy以外にyも表す。逆に本文ではoはoとəを表すが、語彙集ではəしか表さない。

本文

表記	キリル文字
u	v
o	o y ə
o	o ə

語彙集

表記	キリル文字
u	y v
o	o y ə
o	ə

## 9. 語彙集における語頭子音とo, u, oが表している母音

円唇母音がどういふ母音を表しているかに関しては先行する子音によってかなりの違いがある。第一音節に限ってその分布を見ると次のようになる。

	o	u	o
b		v	
g		v	
d		v	
j	o	(y) v	
z	o	y v	ə
m	o	(y)	ə
n	o y	v	
#	o y	v	ə
s	o	v	
t	o	v	
h	o y ə	v	
ch	y ə		
sh	o y	v	
y	o	(y) v	

(y) は yyのみ

# 10. 語彙集における a - uu, a - oo, o - oo

現代モンゴル語ではaの後にyyは来るけれどもooは来ない。したがってa - uuとa - ooは同じものであり、区別する必要はない。一方oの後にはooもyyも来るし、yyの前にはoだけでなくyも来るので、oとyの区別をはっきりしておかないと曖昧になる。語彙集でどうなっているかを調べると次のようになっている。

a - uuがもつばら#, yの後, a - ooがそれ以外 (b, g, d, s, h, ts) の後に現れるという傾向が見られる。データが少ないために、音声学上の用語を用いて一般化することはできないが、語頭子音の違いが表記の違いを引き起こしているということは言えそうである。

表記	a - uu		a - oo	
キリル文字	a-yy		a-yy	
#	14 aguur	狩猟	51 asoo-	尋ねる
	15 aguu	偉大な		
	44 alchuul(sic)	ハンカチ		
b			106 bachoo	狭い
g			149 galzoo	気狂い
			150 galoo	ガチョウ, 雁
d			169 daaboo(sic)	木綿
			178 davoo	より良い
			180 davchoo	狭い
s			581 sarool	明るい
h			823 haloon	暑さ (熱い, 暑い)
			849 hatoo	固い
ts			964 tsaagoor	向う側に
y	1126 yavuul-	派遣する		
	1127 yavtsuu	狭い		
	1130 yaduu	貧しい		
	1131 yazguur	起源		

o - ooに関してはいっそう一般化が困難であるが、次の例から見る限り、キリル文字のo-y y/y-yyを区別していない。

表記	o - oo	o - oo
キリル文字	o-yy	y-yy

#	475	orchool-	翻訳する	724	orgool-	栽培する
	476	orchoolagch	通訳	726	ordool	～の前に
	477	orchoolga	翻訳	732	oroo	下の

## 11. 語彙集の誤植

語彙集の誤植を分類すると次のようになる。『現代蒙英日辞典』の綴り字を踏襲しているため、の間違いが多数見られる。『現代蒙英日辞典』は独特な表記体系に基づいてモンゴル語が綴られている。その表記体系には一貫性も整合性もあるが、それを一般読者に押し付けるのは行き過ぎである。また本文と語彙集の表記に一貫性が保たれなくなる。

### 11. 1. 『現代蒙英日辞典』の綴り字を踏襲したもの

#### 11. 1. 1. 7 子音+母音+9子音

『現代蒙英日辞典』では7子音の直後に対応するモンゴル文語で母音がある場合、記されるが、正規の正書法ではその母音は識別母音などを除いて不要である。

37	alas	als	遠い	78
176	davas	davs	塩	85
194	devesger	devsger	敷物, 床	86
241	jimes	jims	果物	89
284	zureh	zurh	心臓	91
393	naras	nars	松	97
455	oimos	oims	ソックス	101
495	ovos	ovs	乾草	103
508	ols-	ols-	腹がへる	104
509	omod	omd	ズボン	104
528	oroh	orh	家族	105
706	olas	ols	国家	114
722	oras-	ors-	流れる	115
877	holas	hols	竹	123
879	homas	homs	つめ	124
980	tsaras	tsars	檜, なら	129
1061	egech	egch	姉	133
1087	eles	els	砂	135

1088	ele <u>st</u>	elst	砂の	135
------	---------------	------	----	-----

## 11. 1. 2. 識別母音を有する音節の前の母音

歯茎鼻音及び有声口蓋垂摩擦音の直後には正規の正書法では識別母音を書く。この点は『現代蒙英日辞典』でも同じである。正規の正書法では識別母音を有する音節の直前にi) 子音が二つ並ぶ場合にはその二つ目の子音の後に母音が必要となるが, ii) 子音が一つしかない場合には, その子音の直後に母音は必要とされない。『現代蒙英日辞典』ではi) の場合も ii) の場合も原則として母音を書く。以下の語はii) の場合である。

36	al <u>a</u> ga	alga	手のひら	78
101	baril <u>a</u> ga	barilga	建物	81
795	haal <u>a</u> ga	haalga	戸	119
796	haal <u>a</u> gach	haalgach	門番	119
891	hot <u>a</u> ga	hotga	ナイフ	124
510	om <u>o</u> no	omno	南の	104
511	om <u>o</u> noz <u>u</u> g	omno zug	南	104
512	om <u>o</u> no <u>o</u> ss	omno <u>o</u> ss	～に対して	104
513	om <u>o</u> no <u>h</u>	omnoh	前の	104
514	om <u>o</u> no <u>h</u> on	omnoh <u>o</u> n	～の直前に	104
526	or <u>o</u> no	orno	西洋 (西の)	105

## 11. 1. 3. 動詞語幹

動詞語幹は正規の正書法では母音語幹 (長母音・二重母音/短母音) と子音語幹とあるが, 『現代蒙英日辞典』では原則として母音語幹 (長母音・二重母音) と子音語幹であり, 短母音語幹はない。以下の例はla-/le- の直前が7子音であるから, 正規の正書法では短母音語幹である。

88	bal <u>a</u> -	ball <u>a</u> -	消す	80
383	nair <u>a</u> -	nairl <u>a</u> -	宴会を催す	97
413	nuur <u>e</u> -	nuurl <u>e</u> -	宛名を書く	98
870	hoviar <u>a</u> -	hoviarl <u>a</u> -	分配する	123
944	hem <u>e</u> -	heml <u>e</u> -	かじる	127

## 11. 1. 4. i の位置

『現代蒙英日辞典』ではできるだけ語末に短母音は書かない。正規の正書法では次のような場合は語末に短母音を書く。

50	ari <u>h</u>	arhi	酒	78
----	--------------	------	---	----



146	gail	gaali	税関	84
-----	------	-------	----	----

11. 1. 5. その他

次の語は辞書によってバリエーションがある。<sup>9)</sup>

28	azarga	azraga	種馬	77
365	mergejil	meregjil	専門	96

11. 2. 長母音を短母音で表記している語

11. 2. 1. i

268	zogi	zogii	蜜蜂	90
342	mini	minii	私の	95
363	melhi	melhii	カエル	96
394	narin	nariin	細い, やせた	97
397	nigem	niigem	社会	98
633	tim	tiim	はい	110
939	helgi	helgii	おしの	127
992	tsetsgi	tsetsgii	ひとみ	129
1007	chireg	chiireg	強い	130
1024	shi	shii	芝居	131

11. 2. 2. 補助母音の後

487	oyon	oyoon	知恵	102
488	oyotan	oyootan	学生	103
1116	ya-	yaa-	どうする	136
1117	yalaad	yaagaad	何故	136
1119	yar-	yaar-	急ぐ	136

11. 3. 余分な母音が記されている語

11. 3. 1. 口蓋化子音gy, hyに余分な母音が添加しているもの

167	gayalgar	gyalgar	つやのある	85
958	hayazgaar	hyazgaar	国境	128
959	hayamaral	hyamaral	危機	128
960	hayamd	hyamd	安い	128
961	hayasaa	hyasaa	ハマグリ	128

962	hayatad	hyatad	中国	128
-----	---------	--------	----	-----

著者はキリル文字のгя, хяが正しく読めていないようである。

11. 3. 2. その他

421	negebur	neg bur	それぞれ, 各々	99
934	hedi	hed	いくつ?	126
959	hayamaral	hyamral	危機	128

11. 4. 分かち書きをしていない語

11. 4. 1. 複数

391	ahnar	ah nar	兄たち	97
392	bagshnar	bagsh nar	先生方	97
608	tanar	ta nar	あなたたち	109

11. 4. 2. その他

421	negebur	neg bur	それぞれ, 各々	99
511	omonozug	omno zug	南	104

11. 5. その他

11. 5. 1. l / r の間違い

44	alchuul	alchuur	ハンカチ	78
273	zulgaa	zurgaa	6	91
138	gadaad her	gadaad hel	外国語	63
301	zeeluur-	zeeluul-	貸す	92

11. 5. 2. n を h と誤記したもの (おそらく手書き原稿の判読ミス)

331	mahan	manan	もや, 霧	94
332	mahar-	manar-	もや, 霧がかかる	94
539	oshoo heg	oshoo neg	もう一度	105

11. 5. 3. v を b と誤記したもの

11	abrage	avraga	巨大な	76
169	daaboo	daavoo	木綿	85
634	tobch	tovch	ボタン	110

キリル文字のбとБは固有語では相補分布を成している（語頭、л, м, н, вの直後でб, それ以外でБ, 疑問助詞のба/Баの区別は語境界を越えて以上の規則が適用される）のでローマ字化する際に区別する必要はないが、いったんb, vのように区別した以上、一貫性が保たなければならない。

11. 5. 4. キリル文字をローマ字に置き換える際の勘違い

499	or-	og-	与える	103
-----	-----	-----	-----	-----

11. 5. 5. キリル文字のБをuiで表記したもの

806	havui	havi	近所	120
807	havuitsaa	havitsaa	近くに	120
846	harui	hari	外国の	122

11. 5. 6. キリル文字のёをそのまま（しかし点をつけずに）表記したもの

858	hoer	hoyor	2	122
-----	------	-------	---	-----

11. 5. 7. 手書き原稿の判読ミス

144	gazarzin	gazarzui	地理学	84
1139	yamag	yanag	恋人	137
1117	yalaad	yaagaad	何故	136

11. 5. 8. 脱落

83	baiga	bainga	常に	80
346	mor	mori	馬	95

11. 5. 9. 添加

250	jujighchin	jujigchin	役者	89
-----	------------	-----------	----	----

11. 5. 10. その他

11	abrage	avraga	巨大な	76
92	balnar	baliar	きたない	81
675	temtseg	temdeg	しるし, 印	113

## 12. ローマ字化の仕方に配慮が足りない。

たとえば, byatshan 小さい82ページはbyat-shanなのかbyats-hanなのか判断できない。実際はbyats-han (бяцхан) である。

## 13. 語彙集の問題点

語彙集には1147語が記載されている。これらのうち訳語が英語でも日本語でも区別されていない語の組 (aav/etseg 「父」, aali/aash 「性質」 のような組) が38組もある。この語彙集では区別が分からない。また英語でのみ区別されているものが14組あるが、区別はあいまいである。わずか1147語のうちに52組 (実際には113語) もこういった語を記載する必要があるのであろうか。

さらに問題になるのは語彙の選択である。bagshil- 「教える」という語を選択する前にzaa- 「教える」を選択すべきである。balgas 「都市」と選択する前にhot 「都市」 を選択するべきである。こういった例を以下に示してみよう。

『モンゴル語入門』			ページ	選択すべき語
19	adguus	動物	77	amitan
23	aj	生活	77	amidral
63	ayal-	歌う	79	dool-
77	bagshil-	教える (教師をする)	80	zaa-
79	baigool-	建てる (建設する)	80	bari-
91	balgas	都市 (城壁)	80	hot
101	barilga	建物	87	baishin
263	zohio-	書く (創作する)	90	bich-
281	zuder-	疲れる	91	yadar-
304	ider	若い	92	zaloo
559	sav	花瓶 (器)	107	vaar
617	tal	方角 (～側)	110	zug
679	tenges	海	113	dalai
695	ogt-	会う (迎える)	114	oolz-
1073	elbe-	助ける	134	tosal-
1122	yavalt	旅行 (行くこと)	137	ayalal

意味不明なものがある。

要するにこの語彙集は著者がある一定の基準に基づいて選んだものであろうが、語義の説明はその語が持つ意味の一部であるにすぎず、それがかなりの外れのものである場合が数多く含まれている。したがってモンゴル語の基礎語彙を抽出したものからはほど遠く、訳語からモンゴル語の語彙を捜し当てようとした場合、とんでもない語に突き当たる可能性があるということを利用者は十分認識していなければならない。

### 註

- (1) 『モンゴル語入門』の出版以前に著者はウイグル語、満州語など15言語の入門書及び『タガログ語基本語彙・文法書』を同出版社から出版している。またそれ以後も各種の言語の入門書の出版が続いている。これらを検討する能力も時間もないが、例えば『チベット語入門』は、著者の宣伝文句とはうらはらに、チベット文語が記されているので、この入門書で勉強しても、チベット人との口語によるコミュニケーションはできるようにはならない。『モンゴル語入門』から推測する限り、これらの一連の書物は、著者の不完全なノートを十分整理しないで、再現したもののように思われる。
- (2) モンゴル語を表記する方法は他にフィノ・ウゴル協会の転写がある。
- (3) アルファベットの名称は開音節では長母音になるが『モンゴル語入門』では短母音で表記している。j はジではなくジェ（より正確にはジェー）であり、h はへ（より正確にはへー）、sh はシェでなくイシ、shch はシチェでなくイシチェ（より正確にはイシチェー）である。
- (4) 明るい／暗いは前舌／後舌（奥舌）に対する表現であるから理解できるが、「深い」というのは何を表しているか分からない。
- (5) ыは先行する子音を口蓋化しないので、それ自体は中舌化する。
- (6) 奈良時代の日本語の母音については8母音説以外に、5母音説（服部（1976））、6母音説（松本（1976））があり、音価についても議論がある。なお高松（1978）も参照。
- (7) ɣは必ず母音の直後に（すなわち二重母音及びийの第二要素）に用いられる。分離符号ではないɣは、i) 母音＋単純子音\_\_\_#、ii) 母音＋単純子音\_\_\_+гүй/тай/я/ё、iii) 7子音\_\_\_9子音の位置でのみ用いられ、それ以外の位置（すなわちiv) 子音＋子音\_\_\_、v) 7子音\_\_\_7子音、vi) 9子音\_\_\_7子音、vii) 9子音\_\_\_9子音、viii) 子音\_\_\_母音）ではɣが用いられる。したがってминьを除いてɣは男性語にしか現れない。一方分離符号のьは女性語にしか現れない。
- (8) 長母音を短母音で表記しているのは、属格及び補助母音の後に例が多く見られる以外は規則性がはっきりしない。第一音節とそれ以外、開音節と閉音節で区別はないようである。
- (9) Монгол үсгийн дүрмийн толь 及び Зөв бичих зүйн лавлах では азарга, мэргэжил であるが、Монгол хэлний товч тайлбар толь では азрага, мэрэгжил である。

### 参考文献

布林特古斯編（1977）『蒙語正音正字詞典』内蒙古教育出版社出版 内蒙古新華書店發行 集寧

- 内蒙古大学蒙古語文研究室編 (1976)『蒙漢辞典』内蒙古人民出版社 呼和浩特
- 内蒙古教育出版社編輯出版 (1984)『蒙古語標準音詞典』内蒙古書店出版 呼和浩特
- 服部四郎 (1976)「上代日本語の母音体系と母音調和」『言語』Vol. 5, No. 6, 2-14
- 角道正佳 (1983)「D. トモルトゴー著・小沢重男・蓮見治雄編訳『現代蒙英日辞典』に見られるモンゴル語表記法」『大阪外国語大学学報』第62号 17-35
- 松本克巳 (1976)「日本語の母音組織」『言語』Vol. 5, No. 6, 15-25
- 泰流社編集部編 (1994)『モンゴル語単語集 日本語・英語対照』泰流社
- 泰流社編集部編 (1994)『モンゴル語会話集 日本語・英語対照』泰流社
- 高松政雄 (1978)「音韻 (史的研究)」『國語學』113, 68-77
- 戸部実之 (1992)『モンゴル語入門』泰流社
- トモルトゴー, D. 著・小沢重男・蓮見治雄編訳 (1979)『現代蒙英日辞典』開明書院
- Дамдинсүрэн, Ц. Б. Осор (1983) Монгол үсгийн дүрмийн толь, БНМАУ Ардын Боловсролын Яамны Сурах бичиг—сэтгүүлийн нэгдсэн редакцын газар, Улаанбаатар.
- Сүхбаатар, Ц. Ж. Лувсандорж (1983) Зөв бичих зүйн лавлах, Улаанбаатар.
- Цэвэл, Я. зохиосон (1966) Монгол хэлний товч тайлбар толь, БНМАУ ШУА Хэл зохиолын хүрээлэн, Улсын хэвлэлийн хэрэг эрхлэх хороо, Улаанбаатар.

(1996. 9. 12 受理)